



自分の声と、ラジカセから聞こえる声がちがうのはなぜ

自分の声は耳から聞いているだけではない

わたしたちが自分の声を聞く場合、自分の声を、耳から聞いているだけではありません。ふつう、わたしたちが聞いている音は、音を出している物のふるえが、空気などを伝わって、耳から入ってきて鼓膜をふるわせ、それが耳のおくの神経に伝えられて、聞こえていると感ずるのです。ところが、頭をコンコンとたたいた音や、おなかグーッと鳴った音など、自分の体で出した音はどうでしょう。耳をふさいでも聞こえてきます。つまり、音は、耳から入ってきたものを、聞いているだけではないのです。

ほかの人には、録音した声も同じに聞こえる

声は、自分の肺から出た空気が、のどにある声帯をふるわせて出ています。ですから、自分の声を耳から聞いているだけでなく、声帯のふるえが骨などを伝わって、体の内側から、耳のおくの神経に伝わった音も、同時に聞いていることとなります。この音は、空気などを伝わらず、直接耳のおくの神経に伝わったものですので、耳から聞いた音とはちがって聞こえます。そのため、テープに録音した声をラジカセなどで聞くと、ちがう声のように、自分には聞こえるのです。しかし、録音した自分の声は、ほかの人にはいつもの自分の声と同じように聞こえるのです。（監修・保志 宏）

